

ひがし ひろ はた こ ふん

# 東広畑古墳



展開写真

転写不可。

ひがし ひろ はた こ ぶん

# 東広畑古墳

辻川山から北側を望むと西田原の田園風景にぽつりと東広畑古墳が見えます。

今から約1400年前に造られた直径約16mの円墳です。

横穴の石室を持ち、床面には川原石が敷き詰められ、石棺が一部残っています。発掘調査に基づき、当初の姿を取り戻し内部も見学できるようになっています。



復元された東広畑古墳



子持ち須恵器器台

古墳の副葬品として、石室の内部から、特殊な須恵器の器台が見つかりました。この特殊な須恵器は、被葬者への副葬品として

この須恵器は、器台の付いた鉢状の大きい器の中の中央に高坏が入り、周りに6つの坏と蓋のセットが配置されていることがわかりました。

装飾付須恵器には、小さい壺や人物や動物が配置されています。

じっくり小像を見ると、人物の顔には、耳や目や口や腕などが細かいところまで忠実に表現されています。

馬を飾る装飾の表現が施されています。



装飾付須恵器器台

# ★ 県内初の発見 ★

東広畑古墳からたくさんの金属器が見つかりました。

古墳内部から、耳環（耳飾り）や馬具（馬に付ける装飾品）や大刀や鉄鏃（矢の先端が尖った狩猟道具）などが土の中に埋もれて、錆に覆われ、本来の姿が不明なものがありました。

そこで兵庫県立考古博物館のご協力を得てX線を通して確認したところ、大発見がありました！！



保存処理前の柄頭



保存処理後の柄頭

大きさ：縦8cm×横4cm

きっこうつながりたんほうもんぎんぞうがんえんとう た ち つかがしら  
**亀甲繫単鳳文銀象嵌円頭大刀柄頭**



大刀の持ち手の柄より先端にある柄頭の部分が今回見つかりました。この柄頭は、装飾があり装飾のある大刀を総称して装飾大刀といいます。

柄頭には、模様があり“象嵌”という大陸由来の技術で描かれています。この象嵌とは、鉄地に溝状に模様を彫り、その部分に銀をはめ込んでいます。

模様を見てみると、「亀甲」=六角形の形の頂点には、二重の丸、辺に三条の線があり、その中に“鳳凰”の雄の鳳が描かれており、他にも簡略された羽毛を表現しています。

この装飾大刀は、円頭形のもの、県内では、3例ほどありますが、亀甲繫単鳳文の模様は県内では、初の発見となります。またこのようにきれいな状態で残るものとしても優品になります。



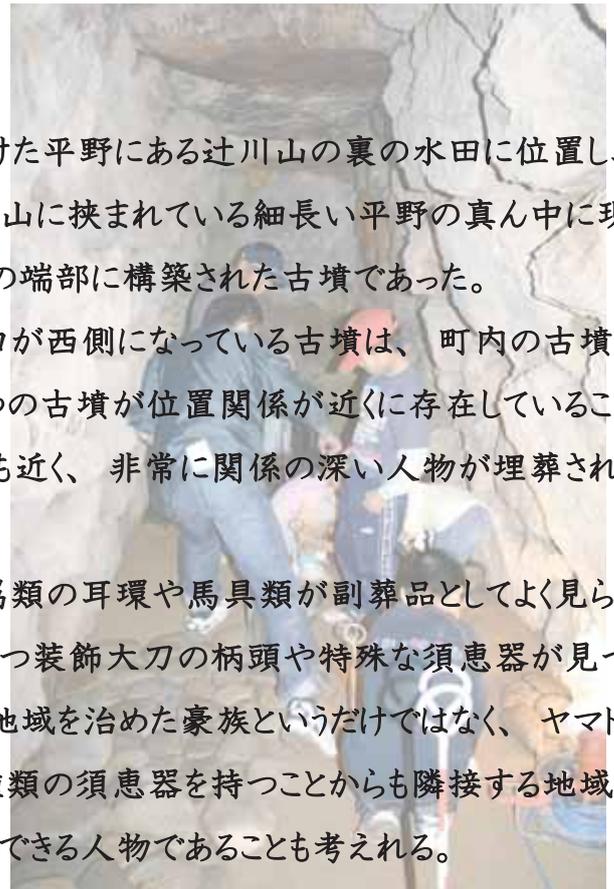
※転写不可。

## まとめ

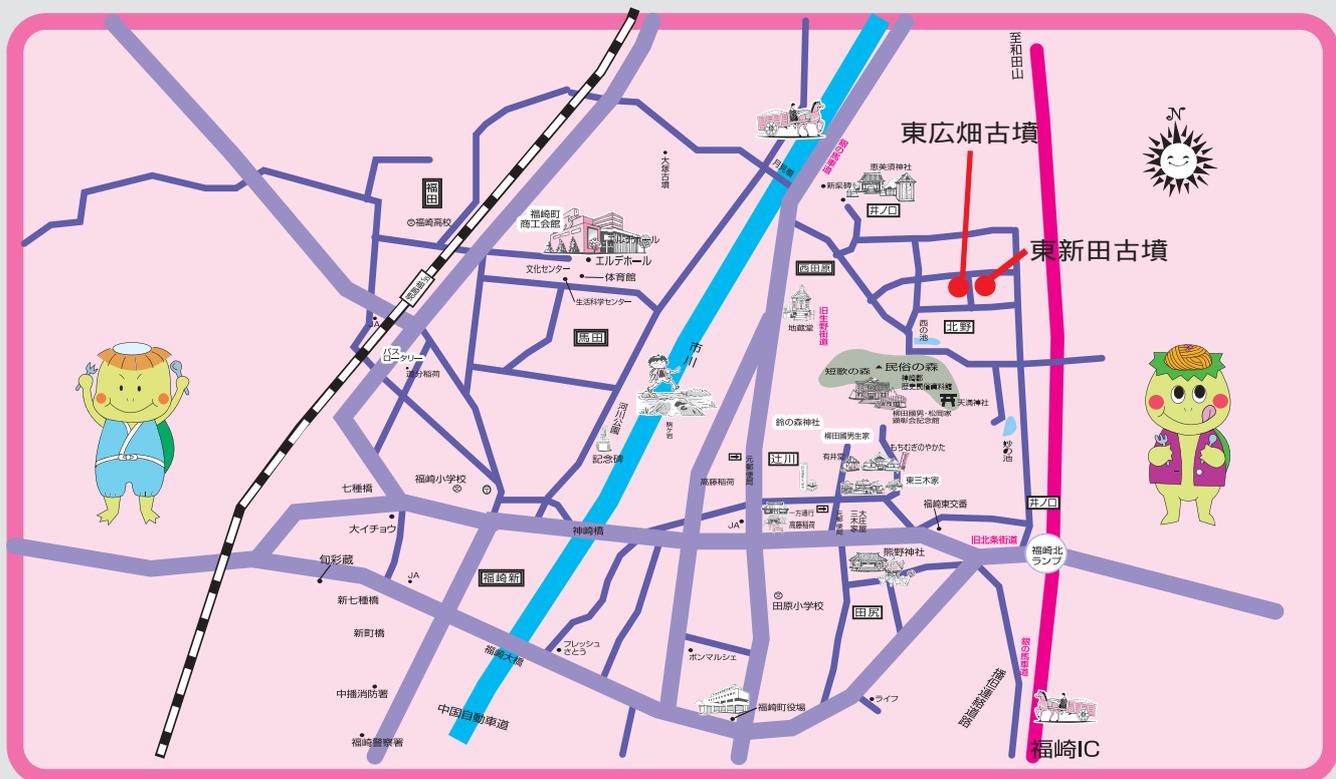
東広畑古墳は、市川の左岸にあり開けた平野にある辻川山の裏の水田に位置し、古墳の北側には山の裾が延びており、山と山に挟まれている細長い平野の真ん中に現在位置している。元々は、ほ場前は尾根上の端部に構築された古墳であった。

面白いことに古墳の横穴式石室の開口が西側になっている古墳は、町内の古墳では東新田古墳とこの2基だけです。この2つの古墳が位置関係が近くに存在していることだけでなく、見つかっている須恵器の時期も近く、非常に関係の深い人物が埋葬されていたと考えられる。

そして古墳時代後期の古墳では、金属類の耳環や馬具類が副葬品としてよく見られるようになります。東広畑古墳も同様で、かつ装飾大刀の柄頭や特殊な須恵器が見つかったことは、どこにでもある古墳ではなく、一地域を治めた豪族というだけでなく、ヤマト政権との関連が考えられ、また特殊器台の2種類の須恵器を持つことから隣接する地域との交流や大陸文化を寛大に受け入れることのできる人物であることも考えられる。



子どもたちによる石敷きの復元作業



### 【交通】

- < 電車で > JR播但線福崎駅より徒歩30分  
駅前にタクシー乗り場あり
- < お車で > 播但連絡道路・中国自動車道で  
福崎インターより約5分  
または国道312号線を利用

ふくさき再発見！！シリーズ 「東広畑古墳」

編集・発行：福崎町教育委員会

〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原3116-1

TEL：0790-22-0560 FAX：0790-22-0630

E-Mail：syakai@town.fukusaki.hyogo.jp